

# .....モノクロ写真館.....

写真には時を止める力があり、その昔から肖像写真や報道写真等の分野で活躍してきました。私の青春時代には写真と言えば白黒が当たり前でしたが、その後、一般用カラーフィルムとしてコダックから「コダクローム」が発売され、写実的な写真がフルカラーで保存できるようになりました。かつては6×6判や6×7判の中判カメラで撮っていましたが、35ミリ判に比べ精細で趣のある写真が撮れたことが思い出されます。(まだ手元に持っています)

今我々が目にする写真は、フィルムからデジタルとなりほぼすべてがカラーとなっていますが、白黒写真には色彩を省いた独自の世界があります。そこで散歩がてら、ごく当たり前の風景を敢えて白黒で撮ってみました。いつも目にするものがどの様に写るのか、偶にはそんな写真もいいものです。もっとも今どき「白黒」と呼ぶのは“白黒をつける時”くらいなので、ここでは『モノクロ写真館』としました！

<小島>











※以上、無作為に写真を並べてみましたが、被写体にあたる太陽光線やアングルにより、同じ写真でも結果として濃淡に差が出るのがモノクロの面白さ。土門拳の作品にもあるように、仏像や歴史的建造物などは陰影の深さからカラーよりモノクロの方がより重厚感がでるものです。これらのモノクロ写真を見て色を想像してみるのも、右脳を刺激してボケ防止になるかも知れません！（データ：今では“骨董品”のペンタックスKr レンズ18～135mm）